

2020年度社会福祉法人よさみ野福社会事業計画

※ 実施事業

よさみ野福社会において現在実施、および新年度にて実施予定の事業は以下のとおり。

生活介護	よさみ野障害者作業所（定員45名）
相談支援	よさみ野障害者作業所（登録42名）
共同生活援助	ぽむ（定員 2か所9名 → 8月から3か所13名）
短期入所	ぽむ（定員 →8月から1か所6名）

※8月からの新GHに併設

※ 概 要

社会福祉法人よさみ野福社会は、昨年10月に法人設立19年を迎え、よさみ野障害者作業所も本年4月で開設19年を迎えようとしています。

この間、障害者施策にかかる制度変更によって当初授産施設であったよさみ野障害者作業所は「生活介護事業」および「就労継続支援 B 型事業（のちに生活介護へと移行）」へと移行し、加えて法人の事業展開の中で「共同生活援助事業」さらに「計画相談支援事業」を併設することになりました。とりわけ利用者、関係者の念願であった「共同生活援助事業」については現在、男女それぞれ合わせて2か所を運営するに至っています。（8月からは3か所）

また、法人運営を担う職員体制についても事業展開に合わせて拡充の方向にあり、昨年度末には2名の正規職員を迎え、新年度においても更なる人員確保を進めており、よさみ野福社会は持続する事業体として堅実な運営を求められることはもちろん、深く地域に根付く社会資源としての側面を期待されています。

※ 日中の場の拡充

2019年度同様、食品班・内職班・紙すき班・第2班という大きく4つのグループに分かれ、各班の独自性を担保しながらも、取組み内容によっては、共同の取組みや交流を行っていきます。

作業所に通う利用者についてはこの間、多種多様な困難を抱えた方も受け止めてきました、その中には加齢に伴う配慮が必要になるケースも増えています。特に第2作業所では午前中は作業、午後に創作活動や機能訓練などといった作業だけでない取り組みが試行さ

れ、利用者の状況に合った柔軟な支援と対応が検討されています。

また、その一環として現在の第2作業所にて新たな活動スペースを借り受け、重度メンバーの療育的取り組みを念頭に置いた活動を計画しています。

※ 生活の場の拡充

グループホーム「ぼむ」を2010年度、さらに2013年度には「こりす」立ち上げ、それぞれで利用者たちの大切な生活の基盤として機能してきました。

しかしながら、先に触れた利用者さらには家族の高齢化を控え、新たな生活の場の確保が課題となっており、新年度には新たにグループホームおよび短期入所（併設）を立ち上げる予定です。（※実施事業を参照）

※ 相談支援の充実

よさみ野福祉会として相談支援事業を展開する中で、その利用者は増加の方向にあり、制度利用にかかる利用者、家族の期待は高まっています。当該事業にかかる体制を拡充し、法人全体としてサポートする中でより利用者が安心し、適切な制度利用に貢献していけるよう支援を行っていきたいと考えています。

※ 職員体制の充実

今年度新たに正規職員1名の増員が確定していますが、新しいグループホーム・短期入所の立ち上げを8月に控え、さらなる増員の予定です。今後利用者の増加や新規施設の開設等を念頭に置き、各職員がそれぞれで経験を積み、社会福祉の担い手として成長していくことが望まれています。内外の研修等にも積極的に利用し、職員の資質向上に向けた取り組みに力を入れていきたいと考えています。

※ 地域との関わり

引き続き連合町会や連合内の他の福祉施設・事業所との関係を密にするとともに、区役所・区社協をはじめ社会福祉施設連絡会や自立支援協議会等、区内の組織等の連携を深めていきます。